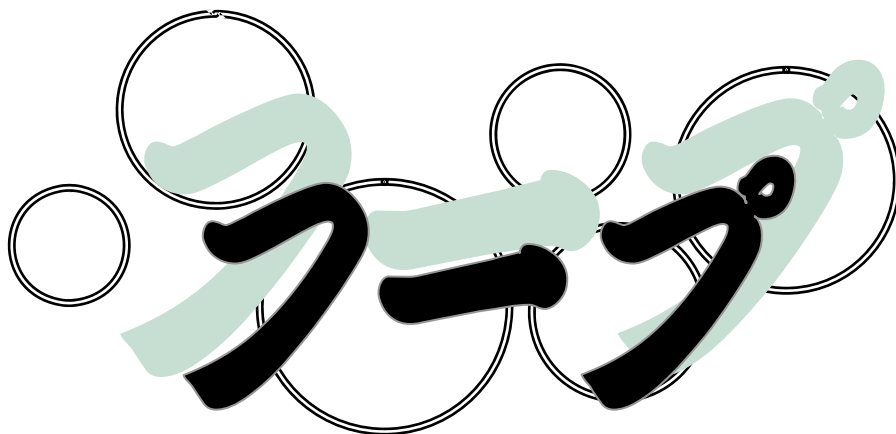




～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2009 年 12 月号
第 61 号



奈良学園大和郡山キャンパス
奈良県大和郡山市
設計 鹿島建設（株）関西支店

目次

■第 52 回建築士会全国大会 ～やまがた大会～	・・・・・・・・ 安田 千鶴代	1 ページ
■最近の仕事から ～夢にこだわり夢やぶれた仕事～	・・・・・・・・ 岡田 伸子	2 ページ
■平成 21 年度近建女合同見学会 ～近江八幡市堀水郷めぐり・ かわらミュージアム見学に参加して～	・・・・・・・・ 宮崎 眞友美	4 ページ
■ユニバーサルデザインセミナー ～奈良学園スクールプロジェクト～	・・・・・・・・ 三木 一美	6 ページ
■今後の事業予定	・・・・・・・・	8 ページ

第52回建築士会全国大会「やまがた大会」

出羽の国から拓くけんちくしの新時代

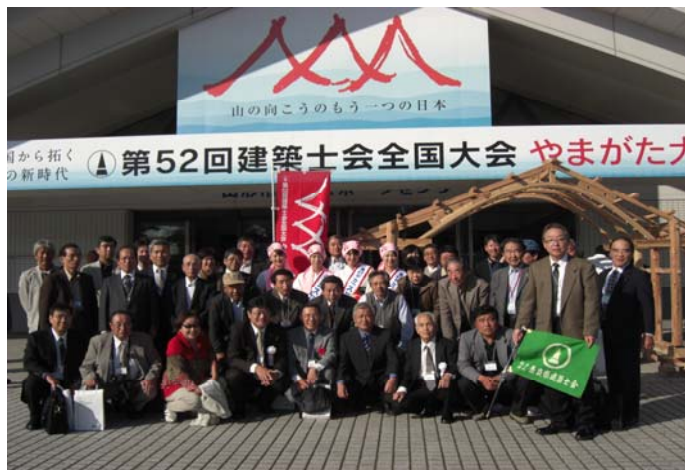
「市民と支えあう地域づくり」

女性委員長 安田 千鶴代

サブタイトル: 山の向こうのもう一つの日本 (エドウィン・O・ライシャワー元駐日大使が山形を訪れたときの表現より) と題し全国大会「やまがた大会」が10月16日～10月17日山形市総合スポーツセンター他で開催されました。当日、仙台空港に9時05分到着。一路レンタカーで最上川ふるさと総合公園センターハウス 設計:内藤廣(寒河江市)へ。2001年12月竣工。建築面積1312.82㎡延べ面積1546.6㎡ 寒河江ハイウェイオアシス隣に位置し、公園からは、最上川が大きく蛇行する様と月山、蔵王の景観を生かした市営公園として整備されている。センターハウスは、屋根及び壁がガラス張り。エントランスは、2階。2階ホールから1階吹き抜けを望む。1階は、広々としたホールと市民が活用できる多目的会議室、ほっと一息できるカフェコーナーが有る。全体が温室の様な建物で、北国の太陽に対する憧れ?を感じる。

夏は、さぞかし暑かろうと思いつつ天童市へ。

此处では、名物の板蕎麦で昼を済ませ、天童木工本社展示場へ。剣持勇や柳宗理で馴染みの集成材を生かした柔らかな曲線が特徴の椅子が並んでいる。高級車の内装材や施設家具の展示等 見学後、大会会場に到着。会場前で、奈良県建築士会の 参加者全員と合流し集合写真撮影。



撮影後、屋台村で芋煮を頂く。

大会会場の中は、参加者の熱気に包まれて大盛況。会長・連合会長・知事・市長の挨拶が続き韓国から大韓建築士会会長の出席もありやまがたの紹介と市民と共に歩む姿が紹介された。大会後、懇親会場に場所を移し、山形大学の

学生による和太鼓の演奏。山形芸術工科大学の学生による花笠音頭は、パワフルで「皆さん御一緒に」と言われても、とても付いては行けません。玉こんにゃく、芋煮、山形牛(ほんの一口でした)、ずんだもち(宮城と違うの?)等……。大いに満足。祭りが終わって日が暮れて、おとなしくホテルに帰り、後は寝るだけ。そのまま朝まで倒れるようにベットへ。翌日は、国の重要文化財、旧県庁舎と旧県会議事堂の山形県郷土館(愛称:文翔館)へ。

設計は、米沢市出身の中條清一郎を顧問とし、東京出身の田原新之助が担当。イギリス・ルネサンス様式を基調とした建物で渡り廊下でつながれている。レンガ造り3階建て、外廻り壁面は、石張りで覆われ、中庭の壁はレンガ積み。昭和50年までは県庁として使用、同59年12月重文指定。同61年から文化庁の補助を受けながら修理工事を進め平成7年9月、10年に及ぶ工事が完成。正面屋根の上に当時の時計台が復元されている。この時計台は、下地を木で成形し銅板で覆っており板金技術が素晴らしい。



山形県郷土館(愛称:文翔館)



文翔館を見学後、蔵王の大露天風呂で入浴、蔵王のお釜を見る頃には、天候が怪しく成り駄目かとも思いつつ、同行二人の運（悪運？）の強さも手伝って、きれいな湖面を拝むことが出来ました。頂上は、紅葉も終わり残念でしたがお山を降る頃には、綺麗な紅葉を見る事が出来ました。ここから更に松島の瑞巖寺に閉門前に滑り込み、本堂修理工事の為 国宝庫裏及び陽徳院（政宗公正室愛姫）御霊屋の特別公開見学。隣の円通院（政宗嫡孫光宗公菩提寺）拝観後仙台空港へ。1泊2日の全国大会参加。同行先輩お二方のお蔭で山形を堪能いたしました。

■平成遷都 1300 年祭記念事業

平城宮跡 交流広場の交流ホールに於いて

平成 21 年 7 月 1 日～7 月 3 日の 3 日間

建築士会・建築家協会・宅建協会の 3 団体で出展する事に成りました。

平成 21 年 11 月 19 日法蓮庁舎の 1300 年記念議場事務所会議室で 3 団体合同の第一回打合せがありました。

- ・展示施設規模：ステージ及び控室他除外
展示スペース 360 m²
- ・展示備品等 一部机、展示ボードの提供は有るが詳細については、12 月中旬に展示要綱と共に文章で提示の予定。
- ・展示品その他の搬入、搬出、提供以外の備品及び展示に要する費用は、全て展示者側とする。
(来場者は、一部を除き無料の為)
- ・次回の 3 団体打合せ会議は、平成 22 年 1 月 19 日午前 10：30～12：00（予定）とする。



天平衣装（第一次大極殿正殿前庭）

日頃女性委員会の活動に参加されていない委員の方も、この事業に参加して頂き、全国に向けて奈良士会の女性委員会をアピールしませんか。
多数の参加をお待ちしております。

* 参加希望者は、090-1674-9656 安田迄連絡下さい。

最近の仕事から（3）

“夢にこだわり夢やぶれた仕事”

岡田 伸子

夢がかなってれば今頃は“なら★まち舞台”は工事の真最中、私は毎日大忙しの筈です。成功しなかった仕事の紹介は少々変かもしれませんが、珍しい経験とネタ不足のため、三回目の原稿に選択しました。

昨年春、あるプロジェクトから声がかかりました。理由は昭和 50 年頃当事務所が設計監理をした商店街のビルの再利用で、建設当初の資料がすべて残っていたためです。

企画は経済産業省が平成 20 年に公募をはじめた、「戦略的中心市街地商業等活性化支援事業」により、補助金を申請し事業化しようとするものです。省の目的は、中心市街地において施設整備事業及び活性化事業に対し、実施に要する経費の一部を国が補助することによって、中心市街地活性化の実効性をより一層高めることを目的としています。

具体的には、民間事業者の能力の活用により、国として取り組んでいる重要施策とも連携しつつ、多くの中心市街地活性化の範となるべき先進的であり、モデル性を有する取り組み等に対し、国が支援してくれるというものです。

プロジェクトチームのメンバーは経済産業省 2 名・近畿経済産業局から 3 名、こうした事業の経験者である建築家がアドバイザーとして東京から参加、奈良市役所からも観光経済部参事が、そして地元商工会議所関係者等々、あとはオーナーと岡田建築設計事務所という構成で、具体的作業は当事務所のみです。

最初の段階では、京都市中京区にある(株)くろちくを訪問、社長の案内で見学、オーナー始め皆力作に感動、是非こんな風にしたいと連発でした。また、キープランは黒竹さんで話は進んでいました。私もこの仕事は荷が重くその方が有難いと思っていました。(株)くろちくは、京都だけでも工芸店舗 7 店舗、飲食店舗 5 店舗あり、古い建物を再生しています。

昨年暮れにも1店舗豪華宿泊施設がオープンし、招待を受けセレモニーに出席させていただきました。しかし、月平均2度開催の委員会は次々と開催、黒竹氏に参加要請がされないまま企画は進みました。

計画は昭和50年建設のRC造2階建工場をパフォーマンス広場に、中央RC造平屋建事務室と2階建て住宅を飲食店街に、そして表通りに面する大正時代の店舗を昔のイメージを復活アンテナショップ等にコンバージョンするものです。

パフォーマンス広場に「妙音天」と命名、土蔵は京都「くろちく」で見たバーのイメージで「蔵の間」としよう。2階屋上庭園に面して、割烹と茶室を、茶室は計画変更が続く中でも執拗に残しました。

敷地が前面道路に対して奥に深く、接道長さが短いこと、前面道路側に大正時代の木造建物があること等、法規的には途方もなく問題が多い計画です。行政も応援する事業であり、建築指導課も積極的にアドバイスはしてくれますが、やはり大変です。

1番困難な問題は木造建物の中に耐火構造の敷地内通路を造らなければならないことでした。

しかし、構造事務所の協力を得て解決、工事は大手ゼネコンが予定されており、施工はなんとかクリアしてくれると思い、やれやれというところでした。

この頃は1番楽しい時期でした。通路の途中やや広い場所には道祖神を祀るアイデアも飛び出しました。アドバイザーの建築家からは御自身の事業の中で、「ぎょうざの神様」を造りだし、人気スポットになった商店街の例を紹介、神様への拝み方もきめて話題を呼んだそうです。食堂街のテナントも決まり始め、アンテナショップも遷都1300年祭にあわせて、グッズの準備も始まりました。

仕事としては架橋に入り、いよいよ公募申請書の準備です。設計書および工法比較検討書作成には困りました。パフォーマンス広場は固定席を設けず、「寄席」「漫才」「マジックショー」「劇団公演」「ライブ」等々多くの利用者に対応できるようにする。2階レッススタジオではバレエ・ダンス、そして「なら国際映画祭」のサブ会場が具体的に決まっていました。このためオーナーは奈良県出身の劇団カムカムキニーナの主宰者松村武氏に建物完成後の運営の一部を依頼しており、舞台照明、吊物設備、音響設備についての計画の検討をしてもらう必要がありました。希望に叶うものにす

ると、とんでもなく高いものになります。

工事費概算書は当事務所で作業しますが、一方オーナーの側では企業概要、経営状況表、事業の効果説明書等々運営体制に関する書類の作成が必要で大変でした。今年に入ってようやく近畿経産局を通して省に申請書を提出、本審査前のチェックを受けてOKをいただくところまでこぎつけました。こまでは、夢を追い続けた話です。



しかし、昨年暮れのリーマンショックはオーナーにも大変な影響がありました。本業の方で契約が極端になくなり、赤字に転落、この事業に対する銀行の融資の目途も立ちにくくなっていったようです。

3月末、4月始めの申請書提出の直前にオーナーから事業の延期あるいは中止の連絡が入りました。まさかと驚きましたがどうしようもありません。以後2ヶ月ほどはなかなか信じられない日々が続きました。あれから半年たってようやく楽しい夢をみたと思うようになりました。

現在は本工事に先だって造った仮設店舗「絵図屋」、ありあわせの材料を利用して工事費130万円のお店だけが残っています。せんとくん・まんとくんグッズを売っています。もちいどの通りへ行かれる折には是非覗いて見て下さい。



平成 21 年度近健女合同見学会

～近江八幡市堀水郷めぐり・

かわらミュージアム見学に参加して～

宮崎 眞友美

屋形船に乗っての水郷めぐりの後、ヴォーリズの建築が数多く残る近江八幡の歴史的町並みを歩いて廻りました。



この町並みは、豊臣秀次によって城下町として整備されました（八幡堀は天正 13（1585）年に豊臣秀次（秀吉の甥）が八幡山に城を築き開町したことに始まります。）。

その後近江商人の町として栄えた近江八幡中心市街地は、平成 3 年に、「国重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受けました。選定地域は新町筋～八幡堀周辺～永原町筋に日牟禮八幡宮境内地を加えた 13.1ha。

近江八幡の町家は中二階建が多く、貫見せ（軒下の壁に貫を見せる）は他に例の少ない独特の意匠と言われています。

まず、ヴォーリズとは…

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（William Merrell Vories）（1880～1964）は、1880 年 10 月 28 日アメリカのカンザス州レブンワースに生まれました。

少年時代より音楽と絵を描くことを好み、建築家になろうと志しました。「学生伝道隊運動」の世界大会に YMCA より出席をし、キリスト教の教えを海外で伝道をしようと決意しました。1905（明治 38）年 2 月 2 日に八幡に着き、滋賀県立商業高校の英語教師として教鞭をとりました。

ヴォーリズは八幡の他に膳所中学、彦根中学、長浜農学校でも教え、各々にバイブルクラスを開いたが、二年後、キリスト教の影響力を恐れた県民の反対意思により解雇されました。しかし、ヴォーリズは八幡に留まりキリストの福音宣伝を中心目的とする近江兄弟社を興しました。

ヴォーリズは建築設計技師として自活の道を得たが、1913（大正 2）年、米国コロラド州に家庭薬メンソレータムの発明者ハイド氏を訪ね、その製造販売権を得たのです。

「建築とメンソレータム」で得た利益の大部分を、近江基督教慈善教化団体（現財団法人近江兄弟社）に寄付し、宣教・医療・教育の事業を行いました。ヴォーリズの建築家としての最初の仕事は、1907 年（明治 40 年）のアンドリュース記念館（旧 YMCA 会館）の仕事でした。1906 年から 1925 年の 18 年間に設計された建物は日本国内で確認されているものだけでも住宅が 164 棟、学校・図書館・寄宿舎が 118 棟、病院が 6 棟、教会・音楽堂・講堂が 114 棟、銀行、会社、デパートが 24 棟などです。その他にも多数あります。その中でも特によく知られているのは、同志社大学の本館・学生寮アーモスト館、関西学院・神戸女学院、大丸百貨店心斎橋店、八幡商業高等学校、ヴォーリズ記念病院、ヴォーリズ記念館、そして、近江兄弟社学園のハイド記念館と教育会館である。



ヴォーリズの設計した建物の数は 1,900 を超え、日本国内だけではなく韓国・北朝鮮・中国・台湾にまで及び、少なくない数の建築物が文化財に登録もしくは指定されています。

1919（大正 8）年、ヴォーリズは一柳満喜子と結婚し、満喜子夫人は清友園幼稚園を開設し、後の学校法人近江兄弟社学園を築いた。ヴォーリズは 1941（昭和 16）年に日本に帰化をし、日本国籍を取得して一柳米来留（ひとつやなぎめれる）と改名しました。これは米国より来て留まると云う決意を示しているのだそうです。

1958 年 近江八幡市名誉市民第一号

1961 年 黄綬褒章

1964 年 勲三等瑞宝章

ヴォーリス建築の特色は…

■住宅

デザインはアメリカの伝統的なコロニアル様式。

コロニアルスタイルとは、アメリカの開拓時代に東部海岸に渡った入植者が、イギリス様式のジョージアスタイル等をもとにしながら、より実用的な間取りを持ち、それを素朴な建築技術で建てられるように、新天地アメリカの風土に合わせて工夫した建築様式である。

赤レンガや、ベージュ色のモルタルのスタッコ仕上げの壁で、シンボリックな煙突が出て印象づけている。

日本の気候風土である高温多湿に対して、日除けや換気を建物に取り込み、過ごしやすい環境を作った。

建物の配置は南東向きを守って太陽の恵みを十分に受けるようにし、建物の周りには風通しを確保して樹木を植えた。各部屋に太陽の恵みを十分取り入れる工夫を施した。

居間にはマントルピース（暖炉）が設けられており、一家団欒を楽しみ、家族の交わりを重要視した。

主として 20 世紀初頭の米国建築の流れをひいて、種々の洋式建築の意匠を合理的に活用したものであり、住宅建築では和風との融合を工夫したものも多い。

■レンガ

当時は手焼きでレンガを作っていたため、空気などが入ると膨らんだりくびれが出来たりしていました。

ヴォーリスはそのような焼損じのレンガを建築材料として再利用し、塀などに活用していました。

■暖炉

「暖炉は床の間と同じように、単に暖房の道具という実用性を超えて、住まう人のこころの置き場所となり、人と人との精神的交流の拠り所としての意味を担う。」

「台所と寝室があれば家です。けれども、家とホームは違います。居間ができて初めてホームの資格になる。」ヴォーリスの住居論における暖炉の捉え方である。

また、ヴォーリスにとって、全ての建築が広義において単なるハウスではなく、人と人が出合い、交流するホームであった。暖炉は住宅だけのものではなく、人の住まう全ての建築には、住宅における居間にあたる場所があり、学校の集会室や会議室、幼稚園の保育室にも暖炉が備えられた。

■階段

階段は上り下りしやすい寸法に設定しており、子供からお年寄りまでが楽に使用できる。

部材が出っ張る箇所は、必ず大きく面を取り怪我をしないように安全性が確保されている。緩やかで上りやすさを重視し、手摺にも配慮が行き渡っている。

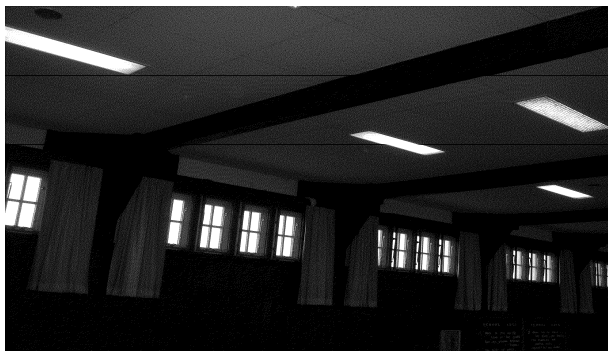
また、学校などの設計では、日々使う子どもたちのために階段や手摺を低くし、ぶつかっても大怪我にならないように丸みを帯びた作りになっています。

■全般

ヴォーリス建築は「様式のない建築」と言われていますが、彼の建築には様々なところで日本の気候風土や住習慣に適合させる工夫がなされています。

そこに共通しているのは、実用性に重きをおき、簡潔ではあるけれども豊かなデザインと親しみやすく包容力のある空間を有したものとなっていることです。

ヴォーリスの建築は主として 20 世紀初頭の米国建築の流れをひいて、種々の洋式建築の意匠を合理的に活用したものである。実用に沿いながら意匠に優れ、ときに簡素でありながら風格あるヴォーリス建築は、近江の地を中心に全国各地で残されている。



このような特色のあるヴォーリス建築の中から、まず最初に訪れたのが・・・

近江兄弟社学園（ハイド記念館、教育会館）

国登録有形文化財

1931（昭和6）年完成 木造2階建て

赤瓦と、クリーム色の荒々しいモルタルスタッコ仕上げの壁の調子が素朴に美しい。

ヴォーリスが各地のミッションスクールで展開させていくミッションヤードの原象となったのだそうです。

次に訪れたのが、ヴォーリス記念館（旧ヴォーリス邸）

1931（昭和6）年完成 木造2階建て

滋賀県指定文化財指定

入母屋風の瓦屋根。

素朴な和洋折衷式で、外壁は質素な木製板の下見張りでオイルステイン塗り仕上げ、白い窓枠、煙突も落ち着いたデザインである。

最初は清友園幼稚園の教員寮として設計されたが、建築中に急遽、ヴォーリスと満喜子の住宅として転用されたものである。夫婦の終（つい）の住居となった簡素なこの建物には、戦争をはさむ苦難と再起の時代が映し出されている。

続いて、旧八幡郵便局

1921（大正10）完成 木造2階建て

ヴォーリス氏によって増築設計された建築物である。

スパニッシュスタイルの和洋折衷の寄棟屋根のヴォーリス初期の貴重な建物である。

朽ち果てて原型を失った建物を、現在は「NPO 法人ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会」の1人1人の熱意により再生中で、コミュニティ施設として一般に開放されている。

そして、村岡邸（旧岩瀬邸）

1933（昭和8）年完成 木造2階建て

渡り廊下を介して、左側にはスパニッシュスタイルの洋館（診療所）で、渡り廊下右側は入母屋屋根で真壁造りの和風住宅であり、左右2棟の調和がうまく図られている。

最後に、アンドリュース記念館（旧 YMCA 会館）

1935（昭和10）年完成 木造2階建て

国登録有形文化財

1907（明治40）年12月にヴォーリスの設計による最初の建築作品として竣工した。

学生時代の友人アンドリュース氏との信仰による結びつきがあり、彼の死を以って多大な寄付を受け、建てられました。その後、1935年に改築された。

赤い日本瓦の入母屋屋根と洋館仕立てのクリーム色のモルタルスタッコ壁、洋式の会館ながら、2階には広い和室が既に設けられていました。立ち上がる2本の煙突と、その間にバランスよく設けられたバルコニー、デザインされたスパニッシュモチーフがこの建物の印象を深くしている。

この八幡 YMCA 会館が拠点となり、ヴォーリス独自のキリスト教事業と建築の出発点となったそうです。

それから解散後に、クラブハリエ日傘禮カフェ（旧忠田邸）

1936（昭和11）年完成 木造2階建て

大阪朝日新聞社で活躍した忠田兵造が、後半生の住まいとして郷里に建てた住宅。

八幡山の麓、緑豊かな環境にあり、和洋の融合した設計に趣がある。屋根瓦は茶褐色で軒桁には和風の杉丸太が使われている。スパニッシュスタイルの雰囲気を持つ和洋折衷式住宅である。玄関扉の縁は青い窯変タイルが張られ、脇にはスパニッシュ風のランプが付けられている。

平成15年、当地の洋菓子店により再生活用がなされている。紅葉の始まる秋本番の10月24日、ヴォーリス建築を満喫した素敵なお一日でした。

滋賀県建築士会の皆様、御案内等々、有難う御座いました。

「こんな校舎で学びたい！！」

スタートからの歩みにふれて・・・

～奈良学園スクールプロジェクト～

三木 一美

今年の夏といえば、梅雨明けが長引いたせいでしょうか、蒸し暑い毎日が続いて気分もしっとりとしていた時、ユニバーサルデザイン部会（以降UD部会と呼ばさせていただきます）より、『奈良学園大和郡山新校舎完成』の見学会のお誘いを受けました。

完成見学会とあって私は、興味津々で8月4日火曜日、奈良県大和郡山市山田にある学校法人 奈良学園 大和郡山キャンパスに出向いて行きました。

UD部会の方々と現地で集合したのち、まず、案内されたのは、旧本館の応接室でした。そこで、奈良学園 野村校長先生からごあいさつと新校舎竣工にあたっての喜びを語って頂き、続いて設計監理・施工者の鹿島建設の営業・設計の方から、新校舎建て替えの経緯をお聞きすることができました。

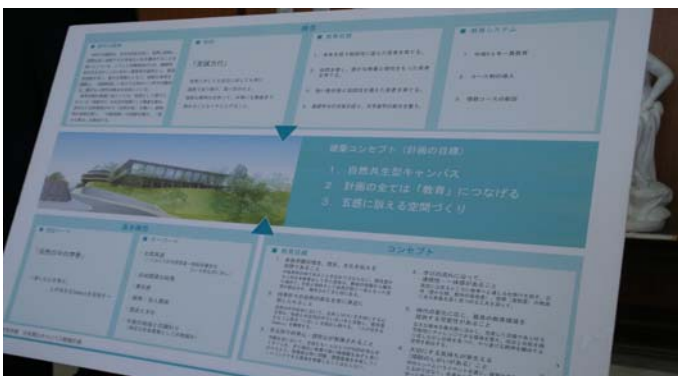




昭和 50 年代半ばに建設された現在の校舎は、老朽化と機能の更新を図るニーズが生じていた為、中学、高等学校の建て替え案が浮上した中、『この工事を通し、生徒たちの教育の場として成り立たす工夫はできないのか！？』という学園側の強い意向で、学園 OB を含む建設会社のスタッフ数名と話し合いを重ねて“プロジェクト”という形で 2006 年 12 月にスタートしたそうです。

こうして生まれた「スクールプロジェクト」とは、生徒・教職員参加型の校舎建替えプロジェクトです。「こんな校舎で学びたい!」という想いを存分に計画に取り入れていく本格的な活動を試みたものでした。

現在の奈良学園の敷地の形状や大きさを模型を使つての説明から始まり、生徒の知的好奇心を喚起させたり、建設分野への興味を深める為、鹿島建設の社員やランドスケープの専門家・デザイナーによる建築セミナーの開催、実際の複合ビル建築現場への見学会、全校生徒を対象とした新校舎に対する希望アンケート等を実施していったということでした。



そして 4 つのチームに分かれ、2007 年 9 月 9 日の文化祭で新校舎のプラン発表をコンペとして行い最終のかたちにしていくということでした。



プロジェクトをまとめる中で創る側と実際利用する側のギャップが生みだされたものが色々あったとお聞きしましたが、お話を伺う中でここにユニバーサルデザインの原点を見たように思えたのは、私だけでしょうか。

建設会社のスタッフの方々の陰ながらのご苦労は絶えなかったとは思いますが、まさにこの“スクールプロジェクト”そのものが UD の考えを取り入れたものではないかと。建築において、UD を具体的に展開する為にも創り手の自己満足ではなく、みんなでニーズや問題を調べ尽し考え、解決して行くという形が望ましいということがこのプロジェクトにより明確です。使い手、創り手、そして行政とが豊かなコミュニケーションと柔軟な対応をもって臨むことが重要であると思いました。近年、『ユニバーサルデザイン』という言葉が一般にも浸透してきていることは、とても喜ばしいことですが、その中で、“ユニバーサルデザイン”と“バリアフリーデザイン”を少し混同されていることが多いように感じています。生活必需品やみんなで使う公共空間や交通機関がすべてユニバーサルデザイン（以降 UD と呼ばさせていただきます）であるならば、そもそもバリアフリーにする必要はないのです。『もともとバリアのない世界を最初から構築すること』を目指しているのが UD の真の狙いであるからです。デザイン対象を障害者と限定し、その問題に対する解決として施すデザイン（アイデア）が一般に言われる「バリアフリー」です。UD とは、文化、言語、国籍、年齢、性別、体格、行動能力、身体状況、職業等の如何を問わず利用することができる施設・製品・情報の設計デザイン（アイデア）をいい、バリアフリー概念の発展形であり、「できるだけ多くの人が利用可能であるようなデザインにすること」が基本コンセプトとして、ノースカロライナ州立大学のユニバーサルデザインセンター所長であったロナルド・メイス氏が 1985 年正式にペーパーで提唱しました。

その7つの原則が (The Center for Universal Design,
NC State University による原文より)

1. どんな人でも公平に使えること
 2. 使う上で自由度が高いこと
 3. 使い方が簡単で、すぐに分かること
 4. うっかりミスが危険につながらないこと
 5. 身体への負担 (弱い力でも使えること)
 6. 接近や利用する為十分な大きさと空間を確保すること
- しかし、『できるだけ多くの人』には多様なプロフィールがありすぎます。そして、建築における UD の考え方においても全ての施設でそれを形にしていくなかで無駄にしまう内容や無理を生じてしまう場合が多々あります。

今回のような“校舎の建て替え”という設計においては利用者も、そのプロフィールも一定の範囲で将来に亘っても想定できるものであれば、その利用者にとってのふさわしい UD を提案し原則と照らし合わせていくことも大切に思いました。私たちが実際に見学していく中で新校舎に採用された各チームの提案項目は、本当にしっかりとしたコンセプトで取り入れられており、生徒、教員みんなの声が行きわたった使い手と創り手のコラボレーションのデザイン設計と言っても過言ではないと思いました。

そしてそれは、UD の 7 つの原則を建築に導入しても充分当てはまるものだったと思います。

私達創り手側としても、広い視野の中 UD 化への強い意志と地道ながらも継続的な努力と改善を怠らず、発信していくことが大切ではないでしょうか。

なぜなら、提唱通り UD は「みんなをつなぐデザイン」でもあるからです。



～平成21年度の事業予定～

○平成22年1月8日

平成22年度名刺交換会 (奈良ホテル)

○平成22年1月20日

応急危険度判定士講習会 北部

(奈良県文化会館)

○平成22年1月27日

応急危険度判定士講習会 南部

(奈良県社会福祉総合センター)

○平成22年1月30日 (土)

女性委員会新年会

(詳しくは「土会なら」新年号折込みにてお知らせします。)

○平成22年2月24日

定期講習会(春日野荘) 受付 H21/11/30～H21/12/11

○平成22年2月27日 (土)

女性委員会バス一日見学会

(詳しくは「土会なら」新年号折込みにてお知らせします。)

○平成22年4月20日

理事・評議委員会 (奈良県文化会館)

○平成22年5月20日

総会 (奈良県文化会館)

編集後記

今年も残すところあと僅かとなりました。新型インフルエンザが流行っていますが、皆様体調はいかがでしょう？
今回2度目の編集をさせて頂きましたが、知らない事が多くネット検索しながら勉強させて頂いております。
このような機会を与えて頂いて嬉しくおもっています。
そして、原稿ご協力頂いた方々ありがとうございました！！

(中西佳奈)

